

主な医薬品とその作用

【問61】

次のかぜ薬の配合成分とその目的とする作用のうち、正しいものの組合せはどれか。

配合成分	目的とする作用
a イソプロピルアンチピリン	発熱を鎮め、痛みを和らげる
b デキストロメトルファン臭化水素酸塩	痰 ^{たん} の切れを良くする
c リゾチーム塩酸塩	鼻粘膜や喉の炎症による腫れを和らげる
d ブロムヘキシン塩酸塩	くしゃみや鼻汁を抑える

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (a、d) 4 (b、c) 5 (c、d)

【問62】

かぜ薬とその配合成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a かぜ薬は、ウイルスの増殖を抑え、ウイルスを体内から除去するものである。
- b セミアルカリプロテイナーゼは、フィブリノゲンやフィブリンを分解する作用があるため、血液凝固異常のある人では出血傾向を悪化させるおそれがある。
- c ヨウ化イソプロパミドは、抗コリン作用によって鼻汁分泌を抑えることを目的として配合されている場合がある。
- d 小柴胡湯^{しょうさいことう}は、体力中等度で、ときに脇腹（腹）からみぞおちあたりにかけて苦しく、食欲不振や口の苦味があり、舌に白苔がつくものの食欲不振、吐きけ、胃炎、胃痛、胃腸虚弱、疲労感、かぜの後期の諸症状に適すとされる。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	誤	誤	正
3	誤	正	誤	正
4	誤	誤	正	誤
5	誤	正	正	正

【問63】

サリチル酸系解熱鎮痛成分に関する次の記述のうち、正しいものの組合せはどれか。

- a アスピリン喘息は、アスピリン特有の副作用であり、他の解熱鎮痛成分では生じない。
- b 末梢におけるプロスタグランジンの産生抑制は、腎血流量を増加させるため、腎機能に障害があると、その症状を悪化させる可能性がある。
- c 解熱に関しては、中枢神経系におけるプロスタグランジンの産生抑制作用のほか、腎臓における水分の再吸収を促して循環血流量を増し、発汗を促進する作用も寄与している。
- d 月経が起こる過程にプロスタグランジンが関与しているため、月経痛（生理痛）に対して鎮痛効果を有する。

- 1 (a、b) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (b、d) 5 (c、d)

【問64】

解熱鎮痛薬及びその配合成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a アスピリンには、血液を凝固しやすくさせる作用があるため、出産予定日12週間以内の妊婦は使用を避ける。
- b サザピリンが配合された一般用医薬品の解熱鎮痛薬は、15歳未満の小児に対して使用することができる。
- c ジリュウは、ツツラフジ科のオオツツラフジの蔓性の茎及び根茎を、通例、横切したものを基原とする生薬で、鎮痛、尿量増加（利尿）等の作用を期待して用いられる。
- d イブプロフェンは、アスピリンに比べて胃腸への悪影響が少なく、抗炎症作用も示すことから、頭痛、咽頭痛、腰痛等に使用されることが多いが、一般用医薬品では小児向けの製品はない。

- | | a | b | c | d |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 正 | 誤 | 正 | 正 |
| 2 | 誤 | 正 | 誤 | 正 |
| 3 | 誤 | 正 | 正 | 誤 |
| 4 | 誤 | 誤 | 誤 | 正 |
| 5 | 正 | 正 | 誤 | 誤 |

【問65】

眠気を促す薬とその配合成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a ジフェンヒドラミン塩酸塩は、抗ヒスタミン成分の中でも特に眠気を促す中枢作用が強い。
- b アリルイソプロピルアセチル尿素が配合された医薬品を使用した後は、少量でも眠気を催しやすく、それにより重大な事故を招くおそれがあるため、乗物や危険を伴う機械類の運転操作は避ける必要がある。
- c カノコソウは、神経の興奮・緊張緩和を期待して配合される生薬成分である。
- d サンソウニンやチャボトケイソウ等が配合された医薬品は、それら成分又はセントジョーンズワートを含む食品を併せて摂取すると、医薬品の薬効に影響を及ぼしたり、副作用のリスクが高まったりすることがある。

	a	b	c	d
1	正	正	正	正
2	正	正	正	誤
3	正	正	誤	正
4	正	誤	正	正
5	誤	正	正	正

【問66】

カフェインに関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a カフェインは、腎臓におけるナトリウムイオン（同時に水分）の再吸収を促進する。
- b カフェインは、胃液分泌抑制作用があり、その結果、副作用として胃腸障害（食欲不振、悪心・嘔吐）が現れることがある。
- c カフェインは、反復摂取により依存を形成するという性質がある。
- d 眠気防止薬におけるカフェインの1回摂取量はカフェインとして200mg、1日摂取量は500mgが上限とされている。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	誤
2	誤	正	誤	正
3	誤	誤	正	正
4	正	正	正	誤
5	正	誤	正	正

【問67】

次の表は、ある一般用医薬品の鎮暈薬（乗物酔い防止薬）に含まれている成分の一覧である。

1錠中	
ジフェニドール塩酸塩	16.6mg
スコポラミン臭化水素酸塩水和物	0.16mg
無水カフェイン	30.0mg
ピリドキシリン塩酸塩	5.0mg

この鎮暈薬に関する次の記述のうち、正しいものの組合せはどれか。

- a ジフェニドール塩酸塩は、内耳にある前庭と脳を結ぶ神経（前庭神経）の調節作用のほか、内耳への血流を改善する作用を示す。
- b スコポラミン臭化水素酸塩水和物は、胃粘膜への麻酔作用によって嘔吐刺激を和らげ、乗物酔いに伴う吐きけを抑えることを目的として配合されている。
- c 無水カフェインは、抗めまい成分の作用による眠気の解消を期待して配合されている。
- d ピリドキシリン塩酸塩は、吐きけの防止に働くことを期待して、補助的に配合されている。

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (a、d) 4 (b、c) 5 (c、d)

【問68】

小児の疳を適応症とする漢方処方製剤（小児鎮静薬）に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 小児鎮静薬は、夜泣き、ひきつけ、疳の虫等の症状を鎮めるほか、小児における虚弱体質、消化不良などの改善を目的とする医薬品である。
- b 一般用医薬品の漢方処方製剤は、用法用量において適用年齢の下限が設けられていない場合には、生後1ヶ月の乳児にも使用することができる。
- c 抑肝散加陳皮半夏を小児の夜泣きに用いる場合、作用が比較的緩和なため、長期間（3ヶ月位）服用して様子を見るのが望ましい。

a b c

- 1 正 正 正
- 2 誤 正 誤
- 3 正 誤 正
- 4 誤 誤 正
- 5 正 誤 誤

【問69】

鎮咳去痰薬の配合成分に関する次の記述のうち、正しいものの組合せはどれか。

- a ノスカピンは、自律神経系を介さずに気管支の平滑筋に直接作用して弛緩させ、気管支を拡張させる。
- b メトキシフェナミン塩酸塩は、交感神経系を刺激して気管支を拡張させる作用を示し、呼吸を楽にして咳や喘息の症状を鎮めることを目的として用いられる。
- c コデインリン酸塩は、延髄の咳嗽中枢に作用して咳を抑えることを目的として用いられる。
- d グアイフェネシンは、痰の中の粘性タンパク質を溶解・低分子化して粘性を減少させることにより、痰の切れを良くする。

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (a、d) 4 (b、c) 5 (c、d)

【問70】

カンゾウに関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a マメ科のウラルカンゾウ又はグリキルリザ・グラブラの根及びストロンで、ときには周皮を除いたもの（皮去りカンゾウ）を基原とする生薬であり、抗炎症作用のほか、気道粘膜からの分泌を促す等の作用も期待して用いられる。
- b 大量に摂取すると、グリチルリチン酸の大量摂取につながり、血栓症を起こすおそれがある。
- c 1日最大服用量がカンゾウ（原生薬換算）として1g以上となる製品は、長期連用を避ける。
- d 甘味料として一般食品にも広く用いられている。

- | | a | b | c | d |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 正 | 正 | 誤 | 誤 |
| 2 | 正 | 誤 | 正 | 正 |
| 3 | 正 | 誤 | 誤 | 正 |
| 4 | 誤 | 誤 | 正 | 誤 |
| 5 | 誤 | 正 | 誤 | 正 |

【問 7 1】

口腔咽喉薬・含嗽薬及びその配合成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a ドロップ剤は、有効成分が早く体内に行き渡るよう、噛み砕いて使用する。
- b 噴射式の液剤は、口腔の奥まで届くよう、息を吸いながら噴射することが望ましい。
- c ヨウ素は、レモン汁やお茶などに含まれるビタミンC等の成分と反応すると脱色を生じて殺菌作用が失われる。
- d トラネキサム酸は、炎症を和らげる成分（抗炎症成分）として配合される。

- | | a | b | c | d |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 誤 | 誤 | 正 | 正 |
| 2 | 誤 | 正 | 誤 | 正 |
| 3 | 誤 | 正 | 正 | 誤 |
| 4 | 正 | 誤 | 正 | 正 |
| 5 | 正 | 誤 | 誤 | 誤 |

【問 7 2】

胃の薬及びその配合成分に関する次の記述のうち、正しいものの組合せはどれか。

- a 制酸成分は、かぜ薬等でも配合されていることが多く、併用によって制酸作用が強くなりすぎる可能性があるほか、高マグネシウム血症等を生じるおそれがある。
- b 健胃薬は、炭水化物、脂質、タンパク質等の分解に働く酵素を補う等により、胃や腸の内容物の消化を助けることを目的とする医薬品である。
- c センブリが配合された散剤は、苦味が強いので、オブラートに包んで服用するとよい。
- d 胆汁末は、肝臓の働きを高める作用もあるとされるが、肝臓病の診断を受けた人ではかえって症状を悪化させるおそれがある。

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (a、d) 4 (b、d) 5 (c、d)

【問73】

次の胃の薬に用いられる配合成分とその目的とする作用のうち、正しいものの組合せはどれか。

	配合成分	目的とする作用
a	ゲファルナート	胃粘膜保護・修復
b	ピレンゼピン塩酸塩	胃液分泌抑制
c	メタケイ酸アルミン酸マグネシウム	消泡
d	デヒドロコール酸	制酸

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (a、d) 4 (b、d) 5 (c、d)

【問74】

腸の薬とその配合成分に関する次の記述のうち、正しいものの組合せはどれか。

- a マルツエキスは、腸内容物の浸透圧を高めることで糞便中の水分量を増し、また、大腸を刺激して排便を促すとされる。
- b ロペラミド塩酸塩が配合された止瀉薬は、食あたりや水あたりによる下痢の症状に用いられることを目的としており、食べすぎ・飲みすぎによる下痢、寝冷えによる下痢については適用対象ではない。
- c トリメブチンマレイン酸塩は、消化管（胃及び腸）の平滑筋に直接作用して、消化管運動が低下しているときは亢進的に、運動が亢進しているときは抑制的に働くとされる。
- d 麻子仁丸は、構成生薬としてダイオウを含み、便秘に適すとされるが、胃腸が弱く下痢しやすい人では、不向きとされる。

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (a、d) 4 (b、d) 5 (c、d)

【問75】

胃腸鎮痛鎮痙薬の配合成分に関する次の記述のうち、正しいものの組合せはどれか。

- a アミノ安息香酸エチルは、メトヘモグロビン血症を起こすおそれがあるため、6歳未満の小児への使用は避けることとされている。
- b メチルベナクチジウム臭化物は、交感神経の伝達物質であるノルアドレナリンと受容体の反応を妨げることで、消化管の運動や胃液の分泌を抑える。
- c パパベリン塩酸塩は、消化管の平滑筋に直接働いて胃腸の痙攣を鎮める作用を示すほか、胃液分泌を抑える作用もある。
- d オキセサゼインは、局所麻酔作用のほか、胃液分泌を抑える作用もあるとされ、胃腸鎮痛鎮痙薬と制酸薬の両方の目的で使用される。

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (a、d) 4 (b、c) 5 (b、d)

【問76】

浣腸薬及びその配合成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 乳幼児では、安易な浣腸薬の使用を避けることとされている。
- b 炭酸水素ナトリウムを主薬とする坐剤は、まれに重篤な副作用としてショックを生じることがある。
- c ビサコジルは、大腸のうち特に結腸や直腸の粘膜を刺激して、排便を促すと考えられている。

- | | a | b | c |
|---|---|---|---|
| 1 | 誤 | 正 | 正 |
| 2 | 正 | 誤 | 誤 |
| 3 | 誤 | 正 | 誤 |
| 4 | 正 | 正 | 正 |
| 5 | 正 | 誤 | 正 |

【問 7 7】

駆虫薬の配合成分に関する次の記述のうち、正しいものの組合せはどれか。

- a パモ酸ピルビニウムは、^{ぎょう}蟻虫の呼吸や栄養分の代謝を抑えて殺虫作用を示す。
- b カイニン酸は、回虫に^{けいれん}痙攣を起こさせる作用を示し、虫体を排便とともに排出させることを目的として用いられる。
- c ピペラジンリン酸塩は、アドレナリン伝達を妨げて、回虫及び^{ぎょう}蟻虫の^ひ運動筋を麻痺させる作用を示し、虫体を排便とともに排出させることを目的として用いられる。
- d サントニンは、そのほとんどが肝臓で代謝されずに腎臓で^{せつ}排泄されるため、腎臓病の診断を受けた人では、腎障害を悪化させるおそれがある。

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、c) 4 (b、d) 5 (c、d)

【問 7 8】

強心薬の配合成分に関する次の記述のうち、正しいものの組合せはどれか。

- a センソは、ヒルガオ科のアサガオの種子を基原とする生薬で、これが配合された丸薬、錠剤等の内服固形製剤は、口の中でよく^か噛んで服用することとされている。
- b ジンコウは、ジンチョウゲ科のジンコウ、その他同属植物の材、特にその辺材の材質中に黒色の樹脂が沈着した部分を採取したものを基原とする生薬で、鎮静、強壮などの作用を期待して用いられる。
- c ゴオウは、ミカン科のキハダ又はフェロデンドロン・キネンセの周皮を除いた樹皮を基原とする生薬で、強心作用のほか、末梢血管の拡張による血圧降下、興奮を静める等の作用があるとされる。
- d サフランは、アヤメ科のサフランの柱頭を基原とする生薬で、鎮静などの作用を期待して用いられる。

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、c) 4 (b、d) 5 (c、d)

【問79】

コレステロールに関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a コレステロールの産生及び代謝は、主として脾臓^ひで行われる。
- b 低密度リポタンパク質（LDL）は、末梢組織のコレステロールを取り込んで肝臓へと運ぶリポタンパク質である。
- c 血漿^{しょう}中のリポタンパク質のバランスの乱れは、生活習慣病を生じる以前の段階では、動悸^きなどの自覚症状を伴うことが多い。
- d 脂質異常症とは、医療機関で測定する検査値として、高密度リポタンパク質（HDL）が140mg/dL以上、LDLが40mg/dL未満、中性脂肪が150mg/dL以上のすべてがあてはまる状態をいう。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	誤	正	正	誤
3	誤	誤	誤	正
4	誤	誤	誤	誤
5	正	誤	正	正

【問80】

貧血用薬（鉄製剤）及びその配合成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 貧血用薬（鉄製剤）を服用すると便が黒くなることがある。
- b コバルトは、赤血球ができる過程で必要不可欠なビタミンB₁₂の構成成分であり、骨髓での造血機能を高める目的で、硫酸コバルトが配合されている場合がある。
- c 鉄分の吸収は食後より空腹時のほうが高いとされているが、消化器系への副作用を軽減するためには、食後に服用することが望ましい。
- d 鉄分の摂取不足による鉄欠乏性貧血を防ぐためには、貧血の症状がみられる以前から予防的に貧血用薬（鉄製剤）を使用することが適当である。

	a	b	c	d
1	誤	誤	正	正
2	正	正	正	正
3	正	正	正	誤
4	正	誤	誤	誤
5	誤	正	誤	正

【問 8 1】

循環器用薬及びその配合成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a コウカは、キク科のベニバナの管状花をそのまま又は黄色色素の大部分を除いたもので、ときに圧縮して板状としたものを基原とする生薬で、末梢の血行を促して鬱血を除く作用があるとされる。
- b ユビデカレノンは、コエンザイムQ10とも呼ばれ、肝臓や心臓などの臓器に多く存在し、エネルギー代謝に関与する酵素の働きを助ける成分で、摂取された栄養素からエネルギーが産生される際にビタミンB群とともに働く。
- c ヘプロニカートは、パントテン酸が遊離し、その働きによって末梢の血液循環を改善する作用を示すとされ、ビタミンCと組み合わせて用いられることが多い。
- d 三黄瀉心湯は、構成生薬としてダイオウを含み、本剤を使用している間は、瀉下薬の使用を避ける必要がある。

- | | a | b | c | d |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 正 | 誤 | 正 | 正 |
| 2 | 誤 | 正 | 正 | 誤 |
| 3 | 正 | 正 | 誤 | 誤 |
| 4 | 正 | 正 | 誤 | 正 |
| 5 | 誤 | 誤 | 正 | 正 |

【問 8 2】

次の外用痔疾用薬の配合成分とその目的とする作用のうち、正しいものの組合せはどれか。

	配合成分	目的とする作用
a	ジブカイン塩酸塩	局所麻酔
b	テトラヒドロゾリン塩酸塩	殺菌消毒
c	クロタミトン	組織修復
d	タンニン酸	収斂保護止血

- 1 (a、c) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (b、d) 5 (c、d)

【問 8 3】

女性の月経や更年期障害に伴う諸症状の緩和に用いられる漢方処方製剤に関する次の記述のうち、正しいものの組合せはどれか。

- a か み しょうようさん 加味逍遙散は、まれに重篤な副作用として、肝機能障害、腸間膜静脈硬化症を生じることがあり、構成生薬としてカンゾウを含む。
- b ご しゃくさん 五積散は、胃腸の弱い人には不向きとされており、構成生薬としてマオウを含む。
- c とうかくじょうきとう 桃核承気湯は、授乳婦における使用に関して留意する必要がある、構成生薬としてマオウを含む。
- d とうきしゃくやくさん 当帰芍薬散は、胃腸の弱い人にも適すとされており、構成生薬としてカンゾウを含む。

- 1 (a、b) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (b、d) 5 (c、d)

【問 8 4】

アレルギーに関する次の記述のうち、()の中に入れるべき字句の正しい組合せはどれか。なお、2箇所の (b)、(c) の中にはそれぞれ同じ字句が入る。

アレルゲンが体内に入り込むと、その物質を特異的に認識した免疫 (a) によって (b) が刺激され、細胞間の刺激の伝達を担う生理活性物質である (c) 等の物質が遊離する。(b) から遊離した (c) は、周囲の器官や組織の表面に分布する受容体と反応することで、血管透過性 (d) 等の作用を示す。

	a	b	c	d
1	グロブリン	肥満細胞	ヒスタミン	<small>こう</small> 亢進
2	アルブミン	貪食細胞	アセチルコリン	<small>こう</small> 亢進
3	アルブミン	肥満細胞	ヒスタミン	抑制
4	グロブリン	貪食細胞	アセチルコリン	抑制
5	グロブリン	貪食細胞	ヒスタミン	<small>こう</small> 亢進

【問 8 5】

鼻炎用点鼻薬及びその配合成分に関する次の記述のうち、正しいものの組合せはどれか。

- a スプレー式鼻炎用点鼻薬は、噴霧後に鼻汁とともに逆流する場合があるので、使用前に鼻をよくかんでおく必要がある。
- b ベンゼトニウム塩化物は、陰性界面活性成分で、黄色ブドウ球菌、溶血性連鎖球菌や結核菌に対する殺菌消毒作用を示すが、ウイルスには効果がない。
- c フェニレフリン塩酸塩が配合された点鼻薬は、過度に使用されると、鼻づまり（鼻閉）がひどくなりやすい。
- d クロモグリク酸ナトリウムは、アレルギー性でない鼻炎や副鼻腔炎^{くう}に対して有効である。

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (a、d) 4 (b、d) 5 (c、d)

【問 8 6】

眼科用薬に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 人工涙液は、目の疲れや痒み^{かゆ}、結膜充血等の症状を抑える成分が配合されているものである。
- b 点眼薬 1 滴の薬液の量は、結膜囊^{のう}の容積よりも少ないため、一度に何滴も点眼すると薬液が結膜囊内^{のう}に行き渡り、より高い効果が得られる。
- c ソフトコンタクトレンズは水分を含みやすく、防腐剤などの配合成分がレンズに吸着されて、角膜に障害を引き起こす原因となるおそれがあるため、装着したままの点眼は避けることとされている製品が多い。
- d 一般用医薬品の点眼薬には、緑内障の症状を改善できるものがある。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	正
2	誤	正	正	正
3	誤	誤	正	誤
4	正	正	誤	誤
5	正	誤	正	誤

【問 8 7】

眼科用薬の配合成分に関する次の記述のうち、正しいものの組合せはどれか。

- a コンドロイチン硫酸ナトリウムは、結膜や角膜の乾燥を防ぐことを目的として用いられる。
- b イプシロン-アミノカプロン酸は、毛様体におけるアセチルコリンの働きを助けることで、目の調節機能を改善する効果を目的として用いられる。
- c スルファメトキサゾールナトリウムは、結膜を通過している血管を収縮させて目の充血を除去することを目的として配合されている。
- d ホウ酸は、抗菌作用による防腐効果を期待して、点眼薬の添加物（防腐剤）として配合されることがある。

- 1 (a、b) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (b、d) 5 (c、d)

【問 8 8】

皮膚に用いる薬に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a エアゾール剤は、同じ部位に 5 秒以上連続して噴霧することが望ましい。
- b 貼付剤（テープ剤、パップ剤）は、同じ部位に連続して貼付すると、かぶれ等を生じやすくなる。
- c 打撲や捻挫などの急性の腫れや熱感を伴う症状に対しては、冷感刺激成分が配合された外用鎮痛薬が適すとされる。
- d 外皮用薬で用いられるステロイド性抗炎症成分は、広範囲に生じた皮膚症状や、慢性の湿疹・皮膚炎を対象とするものである。

- | | a | b | c | d |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 誤 | 正 | 正 | 誤 |
| 2 | 正 | 正 | 誤 | 正 |
| 3 | 誤 | 誤 | 正 | 誤 |
| 4 | 誤 | 正 | 誤 | 正 |
| 5 | 正 | 誤 | 正 | 正 |

【問89】

殺菌消毒薬の配合成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a オキシドール（過酸化水素水）は、一般細菌類、真菌、ウイルスに対する殺菌消毒作用を示す。
- b クロルヘキシジン塩酸塩は、結核菌を含む一般細菌類、真菌類に対して比較的広い殺菌消毒作用を示すが、ウイルスに対する殺菌消毒作用はない。
- c マーキュロクロムは、ヨードチンキと混合すると不溶性沈殿を生じて殺菌作用が低下する。
- d エタノールは、アルコール分が微生物のタンパク質を変性させ、それらの作用を消失させることから、結核菌を含む一般細菌類、真菌類に対する殺菌消毒作用を示す。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	正	誤	正	誤
3	誤	正	誤	誤
4	誤	誤	正	正
5	誤	正	正	正

【問90】

外皮用薬の配合成分に関する次の記述のうち、正しいものの組合せはどれか。

- a ヒドロコルチゾンは、末梢組織（患部局所）における炎症を抑える作用を示すが、副作用として、細菌、真菌、ウイルス等による皮膚感染や持続的な刺激感が現れることがある。
- b デキサメタゾン^ンは、分子内に副腎皮質ホルモン（ステロイドホルモン）と共通する化学構造を持たず、抗炎症作用を示す非ステロイド性抗炎症成分である。
- c イブプロフェンピコノール^{ール}は、吹き出物に伴う皮膚の発赤や腫れを抑えるほか、吹き出物（面皰）の拡張を抑える作用があるとされる。
- d サルファ剤、硫酸フラジオマイシンは、抗菌作用を示し、長く連用しても連鎖球菌、黄色ブドウ球菌などの化膿菌が耐性を獲得するおそれはない。

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (a、d) 4 (b、c) 5 (b、d)

【問9 1】

みずむし・たむし用薬及びその配合成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 一般的に、湿潤している患部には液剤が適し、皮膚が厚く角質化している部分には軟膏又はクリームが適すとされる。
- b 湿疹か皮膚糸状菌による皮膚感染かはっきりしない場合には、抗真菌成分が配合された医薬品を使用することが適当である。
- c エコナゾール硝酸塩は、患部を酸性にすることにより、皮膚糸状菌の発育を抑える作用を目的として用いられる。
- d シクロピロクスオラミンは、皮膚糸状菌の細胞膜に作用して、その増殖・生存に必要な物質の輸送機能を妨げ、その増殖を抑える作用がある。

- | | a | b | c | d |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 正 | 正 | 誤 | 正 |
| 2 | 誤 | 誤 | 正 | 正 |
| 3 | 誤 | 正 | 正 | 誤 |
| 4 | 正 | 誤 | 誤 | 誤 |
| 5 | 誤 | 誤 | 誤 | 正 |

【問9 2】

次の歯槽膿漏薬の配合成分とその目的とする作用のうち、正しいものの組合せはどれか。

- | | 配合成分 | 目的とする作用 |
|---|---------------|---------|
| a | カルバゾクロム | 抗炎症 |
| b | 銅クロロフィリンナトリウム | 組織修復 |
| c | アラントイン | 止血 |
| d | チモール | 殺菌消毒 |

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、c) 4 (b、d) 5 (c、d)

【問93】

口内炎及び口内炎用薬の配合成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 口内炎は、口腔粘膜に生じる炎症で、口腔の粘膜上皮に水疱や潰瘍ができて痛み、ときに口臭を伴う。
- b 一般用医薬品の副作用として口内炎が現れることはない。
- c 口腔粘膜の組織修復を促す作用を期待して、アズレンスルホン酸ナトリウム（水溶性アズレン）が配合されている場合がある。
- d 患部からの細菌感染を防止することを目的として、アクリノールが配合されている場合がある。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	正
2	誤	正	誤	正
3	正	正	誤	誤
4	誤	誤	正	誤
5	正	誤	誤	正

【問94】

ニコチンを有効成分とする禁煙補助剤（咀嚼剤）に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 妊婦又は妊娠していると思われる女性は、禁煙することが推奨されるので、積極的に使用することが望ましい。
- b 禁煙補助剤に配合されるニコチンは、アドレナリン作動成分が配合された医薬品との併用により、その作用を減弱させるおそれがある。
- c 口腔内が酸性になるとニコチンの吸収が低下するため、コーヒーや炭酸飲料など口腔内を酸性にする食品を摂取した後しばらくは禁煙補助剤の使用を避けるべきである。
- d インスリン製剤を使用している人は、ニコチンがインスリンの血糖降下作用に拮抗して、効果を妨げるおそれがあるため、禁煙補助剤を使用する前に、治療を行っている医師又は処方薬を調剤した薬剤師に相談するなどの対応が必要である。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	誤	誤	誤
3	誤	誤	正	正
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	正	誤

【問95】

次のビタミン主薬製剤の主薬として配合される成分とその配合目的のうち、正しいものの組合せはどれか。

配合成分	配合目的
a レチノール酢酸エステル	月経不順の症状の緩和
b リボフラビン酪酸エステル	肉体疲労時におけるビタミンB ₂ の補給
c エルゴカルシフェロール	くる病の予防
d アスコルビン酸	脚気の症状の緩和

- 1 (a、b) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (b、d) 5 (c、d)

【問96】

滋養強壮保健薬の配合成分に関する次の記述のうち、正しいものの組合せはどれか。

- a アミノエチルスルホン酸（タウリン）は、生体におけるエネルギーの産生効率を高めるとされ、骨格筋の疲労の原因となる乳酸の分解を促す働きを期待して用いられる。
- b グルクロノラクトンは、肝臓の働きを助け、肝血流を促進する働きがあり、全身倦怠感や疲労時の栄養補給を目的として配合されている場合がある。
- c ヘスペリジンは、ビタミン様物質のひとつで、ビタミンCの吸収を助ける等の作用があるとされ、滋養強壮保健薬のほか、かぜ薬等にも配合されている場合がある。
- d ガンマーオリザノールは、米油及び米胚芽油から見出された抗酸化作用を示す成分で、同様の作用を有するビタミンEと組み合わせるとその作用が増強されるため、組み合わせた配合は望ましくない。

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、c) 4 (b、d) 5 (c、d)

【問97】

一般用医薬品に用いられる生薬成分に関する次の記述のうち、記述と成分の正しい組合せはどれか。

- a イネ科のハトムギの種皮を除いた種子を基原とする生薬で、肌荒れやいぼに用いられる。
- b シソ科のコガネバナの周皮を除いた根を基原とする生薬で、内用痔疾用薬では主に抗炎症作用を期待して用いられる。
- c バラ科のヤマザクラ又はその他近縁植物の、通例、周皮を除いた樹皮を基原とする生薬で、去痰作用を期待して用いられる。
- d タデ科のツルドクダミの塊根を基原とする生薬で、頭皮における脂質代謝を高めて、余分な皮脂を取り除く作用を期待して用いられる。

	a	b	c	d
1	ヨクイニン	ジオウ	オンジ	カシュウ
2	インヨウカク	ジオウ	オンジ	モクツウ
3	インヨウカク	ジオウ	オウヒ	カシュウ
4	インヨウカク	オウゴン	オウヒ	モクツウ
5	ヨクイニン	オウゴン	オウヒ	カシュウ

【問98】

次の漢方処方製剤のうち、構成生薬としてカンゾウを含まないものはどれか。

- 1 麻黄湯 まおうとう
- 2 呉茱萸湯 ごしゅゆとう
- 3 十味敗毒湯 じゅうみはいどくとう
- 4 補中益气湯 ほちゅうえっきとう
- 5 防風通聖散 ぼうふうつうしょうさん

【問99】

消毒薬の誤用・事故等に対する応急処置に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 誤って飲み込んだ場合には、中毒物質の消化管からの吸収を遅らせ、粘膜を保護するために、誤飲してから数分以内に多量の牛乳などを飲ませる。
- b 原末や濃厚液を誤って飲み込んだ場合には、自己判断で安易に吐き出させることは避ける。
- c 酸やアルカリが目に入った場合には、酸をアルカリで、アルカリを酸で中和するといった処置が望ましい。
- d 誤って吸入し、意識がない場合には、新鮮な空気の所へ運び出し、人工呼吸などをする。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	誤	正	誤	誤
3	誤	誤	正	正
4	正	正	正	正
5	正	誤	正	誤

【問100】

殺虫剤の配合成分に関する次の記述のうち、()の中に入れるべき字句の正しい組合せはどれか。

フェニトロチオンは、代表的な(a)系殺虫成分であり、殺虫作用はアセチルコリンを分解する酵素(アセチルコリンエステラーゼ)と(b)に結合してその働きを阻害することによる。誤って飲み込んでしまった場合には、神経の異常な興奮が起こり、(c)、筋肉麻痺等の症状が現れるおそれがある。

	a	b	c
1	有機リン	可逆的	縮瞳
2	有機リン	不可逆的	縮瞳
3	有機リン	不可逆的	散瞳
4	カーバメイト	不可逆的	散瞳
5	カーバメイト	可逆的	散瞳

医薬品の適正使用と安全対策

【問101】

一般用医薬品の添付文書に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 医薬品には、それに添付する文書（添付文書）又はその容器若しくは包装に、「用法、用量その他使用及び取扱い上の必要な注意」等の記載が義務付けられている。
- b 医薬品の添付文書の内容は変わらないものではなく、医薬品の有効性・安全性等に係る新たな知見、使用に係る情報に基づき、2年に1回定期的な改訂がなされている。
- c 一般用医薬品を使用した人が医療機関を受診する際には、その添付文書を持参し、医師や薬剤師に見せて相談がなされることが重要である。

	a	b	c
1	正	正	正
2	誤	正	正
3	正	誤	正
4	正	正	誤
5	誤	誤	誤

【問102】

一般用検査薬の添付文書に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 一般用検査薬では、その検査結果のみで確定診断はできないので、判定が陽性であれば速やかに医師の診断を受ける旨が記載されている。
- b 妊娠検査薬には、専門家による購入者等への情報提供の参考として、検出感度も併せて記載されている。
- c 一般用検査薬には、キットの内容及び成分・分量のほか、添加物として配合されている成分名も記載されていなければならない。
- d 一般用検査薬には、使用目的や使用方法が記載されている。

	a	b	c	d
1	正	正	正	正
2	誤	誤	正	正
3	正	誤	誤	誤
4	誤	正	正	誤
5	正	正	誤	正

【問103】

一般用医薬品の添付文書の使用上の注意に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 「本剤を使用（服用）している間は、次の医薬品を使用（服用）しないこと」として、医療機関で治療を受けている人が、治療のために処方された医薬品の使用を自己判断で控えることができるよう、使用を避けるべき医療用医薬品の名称が記載されている。
- b 「相談すること」には、その医薬品を使用したあとに、副作用と考えられる症状等を生じた場合や、症状の改善がみられない場合の対応が記載されている。
- c 「妊婦又は妊娠していると思われる人は相談すること」とされている医薬品は、ヒトにおける具体的な悪影響が判明しているものに限られている。

	a	b	c
1	正	誤	正
2	誤	正	正
3	正	正	誤
4	誤	正	誤
5	誤	誤	正

【問104】

次の医薬品成分のうち、それを含有することにより内服用の一般用医薬品の添付文書において、「次の人は服用しないこと」の項目中に、「授乳中の人は本剤を服用しないか、本剤を服用する場合は授乳を避けること」と記載することとされている成分はどれか。

- 1 アスピリンアルミニウム
- 2 アミノ安息香酸エチル
- 3 ブロムワレリル尿素
- 4 オキセサゼイン
- 5 ジフェンヒドラミン塩酸塩

【問105】

次の表は、一般用医薬品の主な成分と、その添付文書の使用上の注意で「次の人は使用（服用）しないこと」に記載されている基礎疾患、症状・状態及びその理由である。

() の中に入れるべき成分は、次のうちどれか。

主な成分	基礎疾患、症状・状態	理由
()	「心臓病」の診断を受けた人	徐脈又は頻脈を引き起こし、心臓病の症状を悪化させるおそれがあるため。
	「糖尿病」の診断を受けた人	肝臓でグリコーゲンを分解して血糖値を上昇させる作用があり、糖尿病を悪化させるおそれがあるため。
	「前立腺肥大による排尿困難」の症状がある人	交感神経刺激作用により、尿の貯留・尿閉を生じるおそれがあるため。

- 1 カフェイン
- 2 プソイドエフェドリン塩酸塩
- 3 ヒマシ油
- 4 スクラルファート
- 5 クロルヘキシジングルコン酸塩

【問106】

スクラルファートが配合された一般用医薬品の胃腸薬、胃腸鎮痛鎮痙薬の添付文書における「使用上の注意」には、「長期連用しないこと」と記載することとされているが、その理由として正しい記述は、次のうちどれか。

- 1 偽アルドステロン症を生じるおそれがあるため。
- 2 アルミニウム脳症及びアルミニウム骨症を生じるおそれがあるため。
- 3 副腎皮質の機能低下を生じるおそれがあるため。
- 4 鬱血性心不全、心室頻拍の副作用が現れることがあるため。
- 5 海外において、長期連用した場合に精神神経症状が現れたとの報告があるため。

【問107】

次の医薬品成分等と、一般用医薬品の添付文書における使用上の注意及びその理由に関する記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a インドメタシンが配合された外用鎮痛消炎薬は、喘息発作を誘発するおそれがあるため、「ぜんそくを起こしたことがある人」は使用しないこととされている。
- b タンニン酸アルブミンは、鶏卵の卵白から抽出したタンパク質であり、鶏卵アレルギーの人でタンニン酸アルブミンが配合された医薬品を服用して重篤なアレルギー症状を呈したとの報告があるため、「鶏卵によるアレルギー症状を起こしたことがある人」は使用しないこととされている。
- c リゾチーム塩酸塩は、乳製カゼインを由来とし、牛乳アレルギーのアレルゲンとなる可能性があるため、「牛乳によるアレルギー症状を起こしたことがある人」は使用しないこととされている。

- | | a | b | c |
|---|---|---|---|
| 1 | 正 | 正 | 正 |
| 2 | 正 | 正 | 誤 |
| 3 | 誤 | 正 | 正 |
| 4 | 誤 | 誤 | 誤 |
| 5 | 正 | 誤 | 誤 |

【問108】

次の医薬品成分のうち、それを含有することにより一般用医薬品の添付文書における使用上の注意として、「血栓のある人（脳血栓、心筋梗塞、血栓静脈炎等）、血栓症を起こすおそれのある人」は使用（服用）する前に、専門家に「相談すること」とされている成分はどれか。

- 1 ジプロフィリン
- 2 アスピリン
- 3 パパベリン塩酸塩
- 4 セトラキサート塩酸塩
- 5 ペントキシベリンクエン酸塩

【問 109】

一般用医薬品の保管及び取扱い上の注意に関する次の記述のうち、正しいものの組合せはどれか。

- a 錠剤は、取り出したときに室温との急な温度差で湿気を帯びるおそれがあるため、冷蔵庫内での保管は不適當である。
- b シロップ剤は、変質しにくいいため、開封後、冷蔵庫内で保管する必要はない。
- c 医薬品を旅行や勤め先等へ携行するために別の容器へ移し替えると、日時が経過して中身がどんな医薬品であったか分からなくなってしまうことがあり、誤用の原因となるおそれがある。
- d 眼科用薬は、長期間の保存により変質するおそれがあるため、家族間等で共有し、できる限り早期に使い切ることが望ましい。

1 (a、c) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (b、d) 5 (c、d)

【問 110】

一般用医薬品の製品表示に関する次の記述のうち、正しいものの組合せはどれか。

- a 「保管及び取扱い上の注意」の項のうち、医薬品の保管に関する事項については、購入者が製品を開封して添付文書に目を通すことが重要であるため、その容器や包装には記載されていない。
- b 使用期限の表示は、適切な保存条件の下で製造後3年を超えて性状及び品質が安定であることが確認されている医薬品でも薬事法上の表示義務がある。
- c 点眼剤に類似した容器に収められた外用液剤では、取り違いにより点眼される事故防止のため、その容器本体に赤枠・赤字で「目に入れない」旨の文字が記載されている。
- d 消毒用アルコール等の危険物に該当する製品には、消防法に基づく注意事項が表示されている。

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (a、d) 4 (b、c) 5 (c、d)

【問 1 1 1】

安全性速報に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 医薬品又は医療機器について、一般的な使用上の注意の改訂情報よりも迅速な注意喚起や適正使用のための対応の注意喚起が必要な状況にある場合に作成される。
- b 独立行政法人医薬品医療機器総合機構の医薬品医療機器情報配信サービスによる配信、製造販売業者から医療機関や薬局等への直接の配布、ダイレクトメール、ファクシミリ、電子メール等により情報伝達される。
- c A4サイズの黄色地の印刷物で、イエローレターとも呼ばれる。

- | | a | b | c |
|---|---|---|---|
| 1 | 正 | 正 | 正 |
| 2 | 正 | 正 | 誤 |
| 3 | 正 | 誤 | 誤 |
| 4 | 誤 | 正 | 正 |
| 5 | 誤 | 誤 | 正 |

【問 1 1 2】

緊急安全性情報及び医薬品・医療機器等安全性情報に関する次の記述のうち、正しいものの組合せはどれか。

- a 緊急安全性情報は、医薬品又は医療機器について緊急かつ重大な注意喚起や使用制限に係る対策が必要な状況にある場合に、都道府県からの命令、指示に基づいて作成される。
- b 緊急安全性情報は、医療用医薬品や医家向け医療機器についての情報伝達である場合が多いが、一般用医薬品に関係するものが発出されたこともある。
- c 医薬品・医療機器等安全性情報は、日本製薬団体連合会において、医薬品、医療機器等による重要な副作用、不具合等に関する情報をとりまとめ、医薬関係者向けに情報提供を行うものである。
- d 医薬品・医療機器等安全性情報には、医薬品の安全性に関する解説記事や、使用上の注意の改訂内容、主な対象品目、参考文献が掲載されている。

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (a、d) 4 (b、c) 5 (b、d)

【問 1 1 3】

医薬品・医療機器等安全性情報報告制度に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 薬局開設者又は医薬品の販売業者等は、医薬品の副作用等によるものと疑われる健康被害の発生を知った場合において、保健衛生上の危害の発生又は拡大を防止するため必要があると認めるときは、その旨を厚生労働大臣に報告しなければならない。
- b 本制度は、医薬品の使用、販売等に携わり、副作用等が疑われる事例に直接に接する医薬関係者からの情報を広く収集することによって、医薬品の安全対策のより着実な実施を図ることを目的としている。
- c 登録販売者は、本制度に基づく報告を行う医薬関係者として位置づけられている。

- | | a | b | c |
|---|---|---|---|
| 1 | 正 | 正 | 正 |
| 2 | 正 | 正 | 誤 |
| 3 | 正 | 誤 | 正 |
| 4 | 誤 | 誤 | 正 |
| 5 | 誤 | 正 | 正 |

【問 1 1 4】

企業からの副作用等の報告制度に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 医薬品の製造販売業者には、その製造販売した医薬品によるものと疑われる副作用症例のうち、使用上の注意から予測できる死亡の発生を知ったときは、その旨を30日以内に厚生労働大臣に報告することが義務付けられている。
- b 医薬品の販売等に従事する登録販売者は、医薬品の製造販売業者が行う情報収集に協力するよう努めなければならない。
- c 一般用医薬品に関して、承認後の調査が製造販売業者に求められることはない。

- | | a | b | c |
|---|---|---|---|
| 1 | 正 | 正 | 誤 |
| 2 | 正 | 誤 | 正 |
| 3 | 誤 | 正 | 正 |
| 4 | 誤 | 正 | 誤 |
| 5 | 正 | 誤 | 誤 |

【問 1 1 5】

薬事法第 7 7 条の 4 の 2 第 2 項の規定に基づく医薬品の副作用等の報告に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 医薬品との因果関係が必ずしも明確でない場合は、報告の対象にならない。
- b 安全対策上必要があると認めるときは、医薬品の過量使用や誤用等によるものと思われる健康被害についても、報告する必要がある。
- c 医薬品によるものと疑われる身体の変調・不調、日常生活に支障を来す程度の健康被害（死亡を含む。）について報告が求められている。
- d 報告期限は特に定められていないが、報告の必要性を認めた場合は、適宜速やかに報告書を送付することとされている。

	a	b	c	d
1	正	正	正	正
2	正	誤	正	誤
3	誤	正	正	正
4	誤	誤	誤	正
5	誤	正	誤	誤

【問 1 1 6】

医薬品の市販後の安全対策の強化を図るため、サリドマイド事件、スモン事件を踏まえて 1 9 7 9 年に薬事法が改正された際になされた法整備等に関する次の記述のうち、該当しないものはどれか。

- 1 再審査・再評価制度の創設
- 2 副作用等報告制度の整備
- 3 医薬品 P L センターの開設
- 4 保健衛生上の危害の発生又は拡大を防止するための緊急命令
- 5 廃棄・回収命令

【問 1 1 7】

医薬品副作用被害救済制度の給付に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 医療費の給付請求は、健康被害を受けた本人（又は家族）が行うことができ、その請求期限は定められていない。
- b 救済給付業務に必要な費用のうち、給付費については、製造販売業者から年度ごとに納付される拠出金が充てられている。
- c 救済給付業務に必要な費用のうち、事務費については、全額国庫補助により賄われている。

	a	b	c
1	誤	誤	誤
2	正	正	誤
3	誤	正	誤
4	正	誤	正
5	誤	誤	正

【問 1 1 8】

医薬品副作用被害救済制度の給付の種類に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 医療手当は、医薬品の副作用による疾病（「入院治療を必要とする程度」の場合）の治療に要した費用の実費を補償するものである。
- b 障害年金は、医薬品の副作用により一定程度の障害の状態にある 18 歳以上の人の生活補償等を目的として給付されるものである。
- c 遺族一時金は、生計維持者以外の人 が医薬品の副作用により死亡した場合に、その遺族に対する見舞等を目的として給付されるものである。

	a	b	c
1	正	正	正
2	誤	正	正
3	誤	誤	正
4	誤	正	誤
5	正	誤	誤

【問 1 1 9】

一般用医薬品の主な安全対策に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 解熱鎮痛成分としてアスピリンが配合されたアンプル入りかぜ薬の使用による重篤な副作用（ショック）で、1959年から1965年までの間に38名の死亡例が発生し、厚生省（当時）より関係製薬企業に対し、自主的な販売中止が要請された。
- b 塩酸フェニルプロパノールアミン（PPA）含有医薬品は、2000年5月米国において、女性が食欲抑制剤として使用した場合、慢性肝炎の発症リスクとの関連性が高いとの報告がなされ、米国内において自主的な回収が要請された。
- c 小柴胡湯しょうさいこうとうによる間質性肺炎については、1991年4月以降、使用上の注意に記載されていたが、その後、小柴胡湯しょうさいこうとうとインターフェロン製剤の併用例による間質性肺炎が報告されたため、インターフェロン製剤との併用を禁忌とする旨の使用上の注意の改訂がなされた。

- | | a | b | c |
|---|---|---|---|
| 1 | 正 | 正 | 正 |
| 2 | 誤 | 正 | 正 |
| 3 | 誤 | 誤 | 正 |
| 4 | 誤 | 正 | 誤 |
| 5 | 正 | 誤 | 誤 |

【問 1 2 0】

医薬品の適正使用のための啓発等に関する次の記述のうち、正しいものの組合せはどれか。

- a 薬事法第77条の3の2において、「国、都道府県、保健所を設置する市及び特別区は、関係機関及び関係団体の協力の下に、医薬品及び医療機器の適正な使用に関する啓発及び知識の普及に努める」と規定されている。
- b 登録販売者は、適切なセルフメディケーションの普及定着、医薬品の適正使用の推進のため、こうした活動に積極的に参加、協力することが期待されている。
- c 医薬品の適正使用の重要性に関する啓発は、小学生・中学生よりは適切な理解力を有する高校生・大学生になってから行うことが望ましい。
- d 薬物依存とは、麻薬、覚せい剤、大麻等の違法薬物の乱用によってのみ生じるものである。

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、c) 4 (b、d) 5 (c、d)